

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船レター～
2015.3.19 vol.53

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

昨日から春のお彼岸に入りました。
皆様、いかがお過ごしでしょうか？

先日の11日で東日本大震災から丸4年が経ちました。
私たちは、紙芝居の活動で8日から11日まで
気仙沼にお伺いさせていただきました。

前回のメールマガジンの日、3月9日は、
宮城県気仙沼市の本吉公民館さんの「寿大学」の閉講式で、
お祝いの公演をさせていただいたのですが、
本日、佐藤館長さんより、お礼のお電話をいただきました。

ご参加の皆様が大変感動して、涙を流されていた方も多く
本当に素晴らしいお祝いをいただきましたとのこと。
私たちこそ、有り難いご縁に感謝でいっぱいでした。

このような感謝のお言葉やご縁をいただけるのも
スターリマン紙芝居プロジェクトのおかげです。

さて、本日から始まる第18話「今を生きるスターリマンの物語」は
そんなスターリマン紙芝居の印刷にご協力いただき、
沖縄からずっと温かな風を送ってくださっている
東洋企画印刷の皆様をご紹介します。

それでは、最後までお読みいただけましたら嬉しいです。
どうぞよろしく願いいたします。

☆第18話「今を生きるスターリマンの物語」
～印刷業でふるさと沖縄から平和の絆をつないでいく～
沖縄県糸満市・株式会社 東洋企画印刷の皆様

第1章 ～株式会社 東洋企画印刷の皆様との出会い～

私たちが株式会社 東洋企画印刷さんの皆様と初めてお会いしたのは、2011年3月21日でした。

前回のメールマガジンでご紹介させていただいたスターリイマン紙芝居プロジェクト発起人の藤原奈央子さんからのご紹介でした。

東日本大震災から2日後の13日、藤原さんと那覇空港で会い、「震災で被災した子ども達にスターリイマンの紙芝居を贈りましょう」とお互いの気持ちを分かち合い、プロジェクトの立ち上げを決意した後、なんと一週間あまりで、藤原さんが紙芝居の制作にご協力いただける印刷会社さんを探してくださったのでした。

その印刷会社さんが、株式会社 東洋企画印刷さんの皆様でした。

3月21日の午前中に、私たちが宿泊していたホテルのロビーに東洋企画印刷の大城孝社長さん、大城佐和子専務さん、中島正司企画室長さん、そして藤原さんが揃ってお出でくださいました。

東洋企画印刷さんの皆様にお会いした瞬間、ああとってもいい方々だなあと直感で感じました。言葉を交わさなくても、きっと同じ思いを共有させていただけるとすぐに思いました。

私たちから簡単な自己紹介と紙芝居プロジェクトの趣旨を10分ほどお伝えしただけでしたが、すぐに大城社長さん、専務さんのご夫妻は、全面的に印刷の協力、活動への支援をしますと真っすぐで力強い笑顔でおっしゃってくださいました。

たった今、出会ったばかりの私たちを信じ、迷わずやりましょうと決断してくださったこと。皆様の温かな真心と真剣な想いに深く感動しました。

こんなに素晴らしい方々と出会えたことに、有り難くて、有り難くて、感謝で胸がいっぱい！被災地のために共に活動を進めていただける方がいる！それだけで、大きな勇気が湧いてきました。

今、思えば、すべては藤原さんのおかげでした。日頃から、藤原さんが東洋企画印刷さんの皆様と信頼関係を築いていたからこそ、すぐに強い結束が生まれたのです。

ホテルで藤原さんや東洋企画印刷の皆様と別れて、その日の午後の便で、私たちは急ぎ自宅に戻りました。それから、紙芝居にするための原稿づくりに打ち込みました。

どんな作品を紙芝居にしたらいいのか、子ども達の状況を思い浮かべながら絵もお話もひとつひとつ一字一句、慎重に選び、原稿を創作していきました。

そして、原型となる紙芝居の見本を持って、会津のお菓子屋さん「太郎庵」さんの目黒常務さんのご協力の元、4月17日、18日に原発区域の市町村から会津に避難している皆様に紙芝居ライブをご覧いただきました。

http://www.dream-hasegawa.com/about/20110419_fukushima.pdf

太郎庵さんの店舗を皮切りに、東山温泉の「庄助の宿 瀧の湯」さん、喜多方市総合体館、あいづ総合体館を廻らせていただき、目黒常務さんは、紙芝居ライブが終わるとスターリィマンの絵をパッケージにした「会津夢街道」のお菓子を皆様にプレゼントしてくださいました。

紙芝居を福島の皆様に喜んでいただけて、プロジェクトは順調に動き始めることができたかと思いましたが、ここで大きな難題にぶつかりました。

震災後、大多数の東北の製紙工場が津波で被災し、日本中が紙不足。特に一番遠い沖縄には、まったく紙が入らない状況になったのです。

しかし、東洋企画印刷さんの皆様は、自社の印刷物を制作することさえも大変な中、被災した子ども達のためにと、沖縄県内外の企業様に紙のご支援をお願いしていただき、沖縄製本株式会社さん、株式会社文友社さん、新生紙パルプ商事株式会社さん、西崎パッケージ株式会社さん、日本大昭和板紙株式会社さん、福山商事株式会社さん、北越紀州製紙株式会社さんのご協力の元、無事に6月末に紙芝居が出来上がりました。

スターリィマン紙芝居プロジェクト
～子ども達の輝く笑顔と夢を未来へつなぐ紙芝居を沖縄から日本全国へ～
<http://starryman.webnode.jp/活動紹介/紙芝居プロジェクト/概要/>

こうして2011年7月7日。
七夕の星に東日本大震災からの復興を祈念して、「スターリィマン紙芝居プロジェクト」の活動の一步をふみ出すことが出来ました。

ここで、7月7日から9日に沖縄県立博物館・美術館で、皆様にご支援を呼びかける展覧会を開催した際、東洋企画印刷さんからお寄せいただいたメッセージを皆様にご紹介させていただきたいと思ひます。

沖縄から被災地の皆様にどのような支援ができるのか。
私たちができる支援とはいったい何だろう。
そんな自問自答の日々の中、運命的なスターリィマンとの出会いがありました。

夢を叶える9つの風船を世界中に届けるスターリィマンの活動は、
私たちの心を動かし、紙芝居という心の支援活動に発展したのです。
この紙芝居プロジェクトから生まれるたくさんの夢と希望の輪は、
きっと大きな広がりを見せてくれるでしょう。

純粋な思いに賛同してくださった多くの皆様に感謝し、
長期的な支援活動となって欲しいと心から願っています。

皆様に希望と笑顔を！
被災地を応援したいみんなの思いをこの紙芝居に乗せて…。

さあ、沖縄から「希望の風」を吹かせましょう。

株式会社 東洋企画印刷 社員一同

東洋企画印刷さんの皆様には、紙芝居を制作していただいただけでなく、
告知用のチラシやポスターをたくさん提供していただいたり、
沖縄県内の書店や物販所に紙芝居を置かせていただく手配をしてくださったり、
その他にも私たちさえも知らない、たくさんのご支援をしてくださっています。

そして、被災地の皆様のことや、私たちのことを
いつも気にかけていただき、その温かなお気持ちが
どんな時も、何よりも私たちの心の支えとなっています。

一歩一歩前に進む勇気や力を与えていただき、
やさしい風を吹かせてくださっています。

「スターリィリィマン紙芝居プロジェクト」は、
2011年3月11日に起きた東日本大震災で
被災した子ども達の心を支える贈りものを贈りたい。
という想いが、沖縄でひとつになり、生まれました。

終戦から70年経った今も尚、
戦争による計り知れない苦しみや悲しみを抱えて生きている。
幾多の台風等の自然災害を乗り越えて来た沖縄の皆様だからこそ。

「震災で失われてしまった、かけがえのないものを、ずっと忘れずにいよう」
「子どもたちに希望や夢に溢れた未来を、思い描き続けてほしい」

そんな平和の願いを、紙芝居に託してくれました。

私たちはこれからも心ある皆様と共に
東北を始め、日本の未来担う大切な子ども達に
紙芝居を通して夢を叶える9つの風船をお贈りしてまいりたいと思います。

「今を生きるスターリマンの物語」
☆第18話の第2章は、3月29日(日)配信予定です！

東洋企画印刷の皆様との出会いは
いかがでしたでしょうか？

2011年3月13日の藤原奈央子さんとの出会い。
そして、3月21日の東洋企画印刷の皆様との出会いは
奇跡のようにつながった運命で結ばれた
スターリマンの皆様の尊い想いの風船、
一つ一つだったのだと、あらためて涙が溢れました。

毎日は感謝で輝いているのですね。
精一杯に人を想いながら生きることが出来るのは
なんと幸せなことなんだとうと感動で胸がいっぱいです。

今年の3月11日は、気仙沼市主催の
合同追悼式に参列させていただきました。

震災の日を気仙沼市内で迎えるきっかけは、
2011年8月4日にお伺いした気仙沼市立津谷保育所の
千葉ふみ子所長先生との出会いからでした。

その後ずっと、千葉先生は、
私たちの紙芝居を贈る活動場所を、
本当にたくさんご紹介してくださいました。

保育園さん、幼稚園さん、介護施設、小学校、中学校、
仮設住宅、公民館、図書館、仮設商店、地域交流会等々。

子ども達だけではなく、大人の皆様にも
スターリマンの紙芝居を必要としていただいている事を
教えていただきました。

初めは土地勘のまったくない私たちでしたが、
今では気仙沼市内の地名をお聞きするだけで、
すぐに分かるようになりました。

そして今回、千葉先生からお声がけいただき、
ご一緒に追悼式にも参列させていただく事になりました。

震災から4年間の歳月と復興の様子、
私たちの活動の日々で出会った皆様の姿を思い、
涙が止りませんでした。

そして、これからも活動を誠心誠意をこめて、
続けようと強く心に刻みました。
被災された方々の希望ある幸せな未来を心から願いながら…

藤原さん、東洋企画印刷の皆様をはじめ、
応援してくださっているすべての皆様に
心からの感謝を込めて…

さて、今回は、第18話の第2章をお送りさせていただきます。

配信は、3月29日(日)になります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

春になって、木々に花々が咲き始めると、
「こんな所にこんな花の木があったんだな」と
新鮮な感動を覚えます。

季節によって移り変わる美しい自然の輝きを
日常の風景の中で感じられるなんて、
本当に日本は素晴らしい国だなあと思います。

さて、4月11日は、そんなふると日本をテーマにした
朗読演奏会を東京・神楽坂で開催いたします。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

篠笛奏者・ことちゃんの奏でる日本の唱歌や童謡にのせて、
ふるさと日本の心の原風景の中を旅するスターリィマンの世界。

是非、このメールマガジンをご覧の皆様にもご参加いただき、
私たちの誇りある日本、かけがえのない大切な故郷を
思う時間を一緒に過ごしていただけたら嬉しいです。

朗読演奏会の中では、今回の気仙沼での活動のご報告などを
皆様にお伝えすることが出来ればと願っております。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

お申し込み <http://kokucheese.com/event/index/270594/>

それから、前回の“サンキュー”の日にちなんで
私から感謝の気持ちを込めたプレゼント、
玄侑宗久氏の「光の山」のサイン入り本に
お申し込みいただきました皆様、誠にありがとうございました。

当選者の方の発表は、発送をもってかえさせていただきました。
残念ながら、当選されなかった方も是非お読みいただけましたら嬉しいです。

「光の山」 <http://www.shinchosha.co.jp/book/445609/>

暖かな春の日和が続き、次回のメールマガジンの発信の頃には
桜のお花見ができるのではと、とても楽しみにしています。

それでは、皆様、今日もありがとうございました！
素敵な毎日をお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見

〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2

TEL/FAX：048-671-7708

HP：<http://www.dream-hasegawa.com>

blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.3.29 vol.54

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

桜の開花と共に、今年も春爛漫の季節になってまいりました。
花粉症に悩まされている方もいらっしゃるかと思いますが、
皆様、お元気でいらっしゃいますか？

さて、私たちの活動をいつも応援してくださっている
Dr.コバ先生から「桜風水」という
ステキな開運術を教えてくださいました。

「桜風水」とは、咲き始めの桜に「夢」を語り、
満開の桜に「決意と感謝」を述べ、
散っていく桜吹雪で「厄落とし」をするそうです。

開花した地域は、今ちょうど3～5分咲きくらいかと思います。
ぜひ今年は、春からの夢を想いながら、
桜の花を愛でてみてはいかがでしょうか？

それでは、3月最後の「今を生きるスターリイマンの物語」は
第18話の第2章 株式会社 東洋企画印刷の皆様の原風景をお送りいたします。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第18話「今を生きるスターリイマンの物語」

～印刷業でふるさと沖縄から平和の絆をつないでいる～

沖縄県糸満市・株式会社 東洋企画印刷の皆様

第2章 株式会社 東洋企画印刷の皆様の原風景

Q1. 創業までの経緯を教えてください。

株式会社東洋企画印刷は、社長（大城孝氏）と
私（専務・大城佐和子氏）の夫婦二人で
1997年（平成9年）1月1日に那覇市古波蔵に創業し、
今年で18周年を迎えました。（2015年3月現在）

二人とも出身は那覇市です。

創業する前、主人は、もともと印刷業界にいました。

13年間勤めていた印刷出版会社がバブル不況の影響で、
経営不振に陥って、倒産してしまい、
やむをえず、職場を離れることになりました。

突然、人生の岐路に立たされ方向性を定める余裕もなく
悩んだ時期もありました。
家庭のことや生活のこともありましたので、
選択肢は限られていました。

実は、社長は前々から農業を願望していました。
日頃から家庭菜園を通して野菜づくりをしていて、
特にマンゴーや果樹菜園に興味があったみたいです。
この際、心機一転し農業に携わる計画になりました。

農業経験豊富な方や、栽培に精通している方を実体験で視察したり、
新しく候補地も探していた中で、着々と計画は進んでいました。
農業を志し始めた頃、同じ印刷業界の諸先輩から、
「是非、この業界で頑張ってもらいたい」という
強い要望をいただいたのです。

そして、会社が倒産してしまったにも関わらず、
これまでお世話になったお客様が、
お仕事をお願いしにくるんです。

現状を説明し、印刷出版業務の取扱いをお断りしても、
なかなか承知してもらえず、転職されると困ると言う意見をいただき、
次第に押し切られる形で、再度印刷物を手配することになりました。

それから注文数は増えるばかりで、忙しくなり、
自然な流れで創業することになりました。
本当にありがたい限りで、人に支えられ、
助けていただいたと感謝しています。

その当時、私たちは結婚11年目をむかえ、
子供が小3と小1でした。

私はその時まで専業主婦でした。
結婚時の私の希望は、子どもが誕生し、小学生になるまで、
専業主婦で、育児に専念したいということでした。

結婚前、私はバスガイドをしていました。

バスガイドになる前から
沖縄のことは大好きだったんですが、
お恥ずかしいことに、初めて職に就いて、
色々なことを勉強していく中で
あまりにも知らないことが多すぎてびっくりしました。

それでも仕事は楽しくて、南部戦跡巡りなどを通して、
沖縄戦のことを知り、その経験が今、
だいぶ役に立っているんですね。

私は、まったく印刷業界のことは知らなかったので、
会社が倒産しても、お父さん（社長）が
お仕事をどうにかしてくれるでしょうと思っていましたから。
危機感というのはなかったです。

「ちょっと仕事を手伝ってくれるか」と言われて、
「私が手伝えること？」って聞いたら、
「できるよ」と言うので一緒に始めたんです。

スタートはマイナスからでしたね。
製造業でしたので、いざ会社の名前を看板に掲げたところで、
これまでどんなものやってきたのか、
実績を問われるものなんですね。
どこの業界もそうなんだと思いますが。

そういう実績もない。認知度もない。
そんな中で、私たち二人しかいませんでしたので人材もない。
そして、物もない。お金もない。ないない尽くしでした。

こんなんでどうやって始めるって、
やはり運転資金が必要で銀行から借りたり、
家族、親戚、兄弟から、色々支援してもらって、
借金してマイナスからのスタートでした。

社長は、前の会社で最初は出版物を
書店に配本する仕事に就いたんです。
今はその出版社は無くなってしまい残念ですが、
それでも社長はたくさんの宝物を与えられました。

「物づくりに対する集中力」
「失敗しても諦めず努力すること」
その日頃の苦労の積み重ねが一つの成功を生み、
みんなで喜びを分かち合うことを教わりました。

当時の会長さんから物の大事さ、人の尊さと優しさを知り
とても感謝しています。
自分にとっては恩師だと社長は言っていますね。

Q2.創業時の目標や夢を教えてください。

創業時、わずか16坪ぐらいの事務所でスタートしました。

16坪のワンルームに、パソコンが2台、コピー機と電話があって、2人の営業と、事務の方に入ってもらって5名で細々と経営していました。

お仕事は受注するんですけど、印刷機を持っていなかったの、このままでは、いただいたお仕事をすべて外注に流さなければならないという状態でした。このままでは会社としての成長がないじゃないですか、だから、大型機械を導入し、生産性を上げて、コストを下げ、会社を成長させていくというのが、創業当初の社長の目標でした。

最初のころは、本当に過酷でした。

限られた予算の中でしか、機械を購入することが出来ませんので、自宅用のパソコンを買う余裕がなく、終わらない仕事を家に持ち帰るために、大型のデスクトップのパソコンを車にのせて、家に帰って、仕事をこなす。

また、翌朝、そのパソコンを車に積んで、出勤するというふうな仕事をずっと続けていました。

いただいたお仕事が官庁関係が多かったものですから、とにかく期限を守るために、本当に時間を割いてこなしましたね。

主人の両親と同居していましたから、とても助けられました。子供たちが帰ってきたら、おじいちゃん、おばあちゃんがいるじゃないですか。

私たちの帰りが遅くなっても、子供たちだけでなく、大人がいるということで、安心出来ましたし、両親のおかげで、淋しい思いはさせないですんだと思っています。

不自由な思いはさせましたけれどね。子供たちは「いつお仕事終わるの？」っていつも言っていましたね。

Q3.創業当初から今日までで印象に残っている出来事を教えてください。

仕事に関してだと、目標としていた大型機械を入れるために、現在の糸満に土地を購入して、社屋を建てました。工場を大きくしたことによって、やっと大型の機械を導入することが出来たんです。

これは結構なチャレンジだったんです。

建物もさることながら、機械一つが億単位なので、すごい借金で、これを返していくために受注を絶やしてはいけないにも関わらず、引っ越した直後に、リーマンショックがあって最初は他人ごとのように見えていたのですが、どんどんその影響が出てきました。

ある程度の見込み受注があってそこから得られる収益を基に、借金の返済計画を立てていたのですがそれがもうまったく崩れてしまって。

さあ、どうやって乗り切ろうかと、ここではさすがに苦しかったですね。どうして乗り越えたのか覚えていないくらい、毎日必死でしたね。

ちょうど、中島さん（企画制作室 室長）が入ってこられた時で、従業員は20名ぐらいの時でしたね。

もうひとつ辛かったのは、東日本大震災があって印刷に関わる、紙やインクなどの供給がすべて止まってしまったんです。

ほとんどの製紙工場が東北の方にあるので、紙の大部分が止まってしまった以上、どうにもならないという状況になってしまっていて。

沖縄県内の印刷物を仕上げるには、県内にある紙でまかなうしかなくて先ずは、急を要する仕事に紙を優先して使い、お客様にも、現状をお話して、納期のこともきちんとご理解いただいて。

時には、要望に応えられない時もありました。そういう時は、私たちの力ではどうにもならない歯痒さがありました。

はせがわ

「このような状況の中で、スターリマンの紙芝居を
6000冊も作ってくださったんですね。」

いえいえ。

東京にあるインクの工場が稼働し始めた頃から
供給が出来るようになりまして、
業界全体の協力体制が出来ていたおかげで、
県内の紙が底をつくことはなく、大量には出来なくても
どうにか、徐々にお客様の要望に
応えられるような環境になっていきました。

ただ、供給が出来るようになっても、
単価が上がってしまったうえに、陸路のない沖縄は
空輸を使うとさらにコスト高になり、
船便は一週間から二週間待たなければ届かないという状況でした。

その後も、紙は値上がりする一方でしたね。

Q4.藤原さんから紙芝居プロジェクトのお話を
初めてお聞きになった時のお気持ちは？
紙芝居プロジェクトを支援しようと思った理由は？

藤原さん自身も、神戸で震災を受けて、辛い思いがあって。
その時、お世話になった沖縄に恩返しをしたいと言うことで
沖縄に来て、色々頑張ってもらった方じゃないですか。

そういう方からのお声かけと言うことで。
よろこんで協力させていただきました。

今年、沖縄は戦後70年になりますよね。
住民を巻き込んだ地上戦で、20万人余りの方々が亡くなられて。

4名に1人が亡くなって、家族も亡くして、
家もなくて、食糧さえなくて、生き残ったものの、
これからどうやって生きていくのという状況の中で、
みんなで協力し合いながら、たくましく生き抜いてきました。

それが、うちなーんちゅ（沖縄人）の
アイデンティティーなんです。

“ゆいまーる”というみんなで助け合う精神が
沖縄の人たちの奥深い所にずっとあるので、
紙芝居プロジェクトのお話を聞いた時にも、
ああ、私たちも協力できるんだと思いました。

被災地の方々に力をかしたい、助けてあげたい、
でもどうしたらいいのか、方法、手段がわからない中で、
このお話をいただいた時には、
私たちにも出来ることがあるという気持ちになりました。

協力する、しないじゃなくて、
これをどうやって活かしていこう、という考えになったのです。

協力するにあたって、みんなから寄付を集めて渡す。
でも、それが終わってしまったら、もうそれっきりじゃないですか。

そうじゃなくて、継続して出来る支援というのは、
何だろうということを、私たちが負担にならないように
考えてくださったのが藤原さんです。まさにこれだと思いましたね。

藤原さんの発想というか、行動力と言うか。
改めてすごいなあと思います。

自分達が動いているように見えますが、
実際は彼女がみんなを動かしているんです。
それはとても感じますよね、中島さん。

中島さんは高知から来た、我が社のジョン万次郎ですから。

中島氏

「ぼくは藤原さんからお話を聞いた瞬間、
やってみたい！と思いました。

何が出来るんだろうと考えていた時に、
藤原さんとの出会いがあり、いいタイミングというか。
社長、専務も即効型ですから。

それに、こちらに来る前は14年間広告代理店にいましたので
企画提案することには慣れていて、その経験が生かされたと思います。」

Q5.今後の夢や志を教えてください。

印刷物は形として残せるということが
私たちはラッキーだと思っているんですね。

何をしてきたかという足跡を残すことができる。
それと同時に出版社としての
私たちの役割が見えてきているんです。

昔、バスガイドをしていた時に、
沖縄のことを色々を知ることが出来ました。
今、沖縄の歴史に携わる本を数多く出版していますが、
その知識がとても役に立っています。

それでもわからないことはたくさんありますので、
もっともっと勉強して、知識を広げて、
形に残して、後世に伝えて行くというのが、
私たちの役割なんだろうと、感じています。

子孫末代までも、
「おじいちゃん、おばあちゃんは、こんなの作っていたんだ。」
と胸をはって自慢できるようなものを、
作っていきたいなあと思っています。

百年後の子供達に、今の沖縄のことを教えたいというのが目標ですね。
私たちが百年前の事を知らなければ、
今の沖縄を100年後に伝えられませんからね。

Q6.皆様の心の支えになっているスターリィマンは誰ですか？

今の社長があるのは、お世話になった会社の会長のお陰なので、
一人目のスターリィマンだと思います。

社長は常に全力投球で頑張ってきました。
それは、両親が目が不自由で、お母さんは生まれつき、
お父さんは幼少の頃に栄養失調で目が見えなくなって。

目が見えない同士が結婚して、
3人の子供に恵まれました。
お姉さんが二人で、社長が末っ子の男の子。

当初は結婚も反対されて、子供を生むなんて、
とても無理だと周りからひどいことも言われたそうです。

偏見もかなりあって、
「目が見えない同士が結婚して生まれた子供も目が見えないだろう。
そんなの誰も面倒みれないぞ。」って。

ようやく戦後20年たった頃で、みんな自分のことだけでも大変で、
いろんな意味で余裕が無かったんだと思います。

「そんなことはない。自分たちでちゃんと育てるから」
と周りの反対を押し切って、3人の子供たちを立派に育てあげたんです。

それはそれは貧しい中でしたが、愛情をたくさんもらって育てられた恩を親孝行という形で返していかなくちゃ、いけないって思いがあって。

だからこそ、両親が元気なうちに成功した姿を見せなければ。と必死に頑張っているんだと思います。

社長にとってのもう一人のスターリイマンは、障害者でありながら、並々ならぬ苦勞を乗り越えて大切に育ててくれたご両親だと思います。

「今を生きるスターリイマンの物語」
☆第18話の第3章は、4月9日(月)配信予定です！

株式会社 東洋企画印刷の皆様のお原風景は、いかかでしたでしょうか？

何のために、この仕事をしているのだろうか！何かを乗り越えて行ったり、苦しい時、辛い時もう一度、原点を振り返りながら、人は前に一歩を踏み出す。

大城社長の生い立ちから感じたご両親への親孝行をしたいとの子としての務め、うちなーんちゅとしてのアイデンティティー。

このような家族のお原風景の中で育まれてきた人への温かい思いに導かれて、私たちは皆様と出会うことが出来たのだと思いました。

それから、出版を通して、100年後にも沖縄のことを伝えていくことが大城社長ご夫妻の志とお聞きして、また、共感しました。

子ども達が100年後、200年後までも日本の故郷のことを語り伝えて行けるように、と東北の被災地や沖縄や日本各地のふるさとの未来を輝かす心の原風景を絵とお話で描いていること。

そして、それを朗読して語り継ぐこと。

共有する思いにまたまた、出会った意味を深く感じております。

大城社長様のお父様、お母様への親孝行が、一日でも長くを心より祈っています。

さて、次回はいよいよ第18話の最終章、
第3章 株式会社 東洋企画印刷の皆様のスターリイマンに宛てた
感謝の風船レターをお送りいたします。

配信は、4月9日(月)です。
皆様、どうかお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

いよいよ4月11日(土)に神楽坂で開催する
「春爛漫のスターリイマン朗読演奏会」まで
あと2週間を切りました。

先日、3月25日。娘は篠笛奏者のことちゃんと
リハーサルをしてきました。

「お母さん、良いお話を創ってくれてありがとう！！
ことちゃんの笛と相まって、今までにない
すごいスターリイマンの世界が出来上がっているよ！」と

熱のこもったリハーサルに、夜はぐったり。
でも、その横顔は、今までにない凛とした輝きがありました。
当日を一番楽しみにしているのは、創作者のお父さんとお母さんです。

まだまだ、ご参加いただける方を募集しております。
是非、皆様お誘い合わせの上、温かな春の訪れを
ご一緒に感じる事が出来たら幸いです。

「春爛漫のスターリイマン朗読演奏会」お申し込み・詳細
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

3月も下旬を迎え、新しいスタートに向けて
色々慌ただしい時期ですね。

身近にある春を探しながら、
心弾む4月をお迎えいただけたらと思います。

それでは、いつもありがとうございます☆
これからもどうぞ宜しくお願いいたします！

はせがわ芳見

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.4.9 vol.55

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

おはようございます。

昨日は、埼玉でもみぞれが降り、

花冷えのお天気となりました。

皆様、体調を崩してありませんか？

さて、いよいよ始まった

新年度、新生活を祝福してくれた桜も

段々と散り際を迎えています。

今年は、色々な所の桜を見ることが出来ました。

2日～3日は、インタビューでお伺いした広島市内。

4日は石坂産業貴社がある埼玉県三芳町の山桜。

地元さいたまの大宮公園、荒川土手、見沼田んぼ、等々。

いつも活動でお世話になっている気仙沼の皆様から、

「桜の開花はまだですよ」と、ご連絡をいただきました。

北日本や信州では、これから一気に春がやってきますね。

皆様にとって、心はずむ素敵な毎日となりますように…☆

それでは、本日は「今を生きるスターリイマンの物語」

第18話の第3章 株式会社 東洋企画印刷創設者

大城社長ご夫妻のスターリイマンに宛てた

感謝の風船レターをお送りさせていただきます。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第18話「今を生きるスターリイマンの物語」

～印刷業でふるさと沖縄から平和の絆をつないでいる～

沖縄県糸満市・株式会社 東洋企画印刷の皆様

第3章 株式会社 東洋企画印刷創設者 大城社長ご夫妻の

スターリイマンに宛てた感謝の風船レター

お父さん（義父）、お母さん（義母）へ

私が大城家に嫁いで今年で30年になります。
全盲の方に接するのは初めての経験で、
戸惑いが無かった訳ではありません。

でも見えないからこそ出来た
言葉でのコミュニケーションや、
直接伝わる手の温もりが、
私にはとても新鮮でした。

こんなにも優しさにあふれたご両親に
育てられた子ども達は、
どんなに幸せだったろう。

でも主人に聞けば
子どもなりの苦労も多かったようで、
幼少の頃からお父さんの目になり、
あんまマッサージの仕事を先まで
一緒に手を引きバスに乗り、
目的地まで行くという事は、
想像をはるかに超えることばかりでした。

通常の子どもの経験し得ないことだらけの
幼少時代を送ってきたことで、
両親への想いはとても強いものになったと思います。

そんな息子の元へ嫁いできた私のことを、
我が子同様に大切にしてもらいながら、
意見の相違があった時には
真剣に喧嘩をしたこと、
それ以上に私を信頼し
頼りにしてもらっていること、
全てに感謝しています。

がむしゃらに働いて
仕事が成功すれば、
安心させてあげられると思いきや、
毎朝ヒヌカン、沖縄の女性が
家族や自分の為にお祈りを捧げる、
台所に祭られている火の神様に
「息子の仕事がうまくいきますように！」と
神頼みしているお母さんの姿は、
どんなに大人になっても立場が逆転することはなく、
いつまでも心配を掛けているのだなど
いうことに、親としての偉大さを感じています。

これからも心配の種はつきないと思いますが、
頑張ってお孝行していきますので、
元気にヒヌカンに神頼みし続けてください。
よろしくお祈りします。

人生の恩師である会長へ

主人が会長に初めてお会いしたのは、
私と結婚してすぐの21歳の時でした。

なにも分からなかった生意気な若造に、
印刷のこと、社会のこと、
人として社会人として生きていく為に
必要なことを全て教えて頂き、
それまでの浮ついた若者が
一気に社会人へと変わっていったのを
今でも覚えています。

今、社長として
会社を運営することが出来るのも、
全て会長のお陰です。

会長が亡くなられて
早19年という月日が流れましたが、
これからも会長の教えを守り、
業界の発展に貢献していきますので、
ずっと見守っていてください。

「今を生きるスターリイマンの物語」
☆第19話の第1章は、4月19日(日)配信予定です！

大城孝社長、佐和子専務の
スターリイマンに宛てた感謝の風船レターは
いかかでしたでしょうか？

大城社長ご夫妻が、お二人のスターリイマンである
ご両親に親孝行なさっているお姿こそ、
私たち日本人の美德です。

今の時代が忘れかけている大切な姿、
そのものだと思います。

そして、沖縄の皆様は、ご先祖様や家族を
とてもとても大切にされています。

大切な人たちの幸せを
その幸せを守ってくださっている
神様やご先祖様への感謝の心を、
“祈り”に込めて生きていらっしゃいます。

何のために働くのか？
「“傍（人）”を楽にするため。」
「親にご恩返しするため。」

その原点に気づかせていただく
真心のお手紙を本当にありがとうございます。

これからも、東洋企画印刷の皆様と
末永くお付き合いさせていただき、
沖縄の素晴らしさを私たちに
お伝えしてゆけたらと心から願っています。

さて、今回は第19話「今を生きるスターリイマンの物語」の
第1章をお送り致します。

配信は、4月19日(日)です。
皆様、どうかお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

いよいよ今週末4月11日(土)は
「春爛漫のスターリイマン朗読演奏会」です。

今、気仙沼からも駆けつけてくださるとのお電話をいただき、
3人で喜び、感激している所です！

夕の部の公演終了後は、交流会を予定していますが、
祐希がセレクトした東北の美味しい食材を
皆様にご賞味いただきたいと思います。

また、私のおばあちゃん伝授の〇〇も
明日、手作りします。
楽しみにしててくださいね！

昼の部と夕の部の公演は、
当日の受付も行っております。

是非お時間がございましたら
足をお運びいただくと嬉しいです。

「春爛漫のスターリィマン朗読演奏会」お申し込み・詳細
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、最後までお読みいただきまして、
いつもありがとうございます☆
また次回の配信もよろしくお願いたします。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>
